

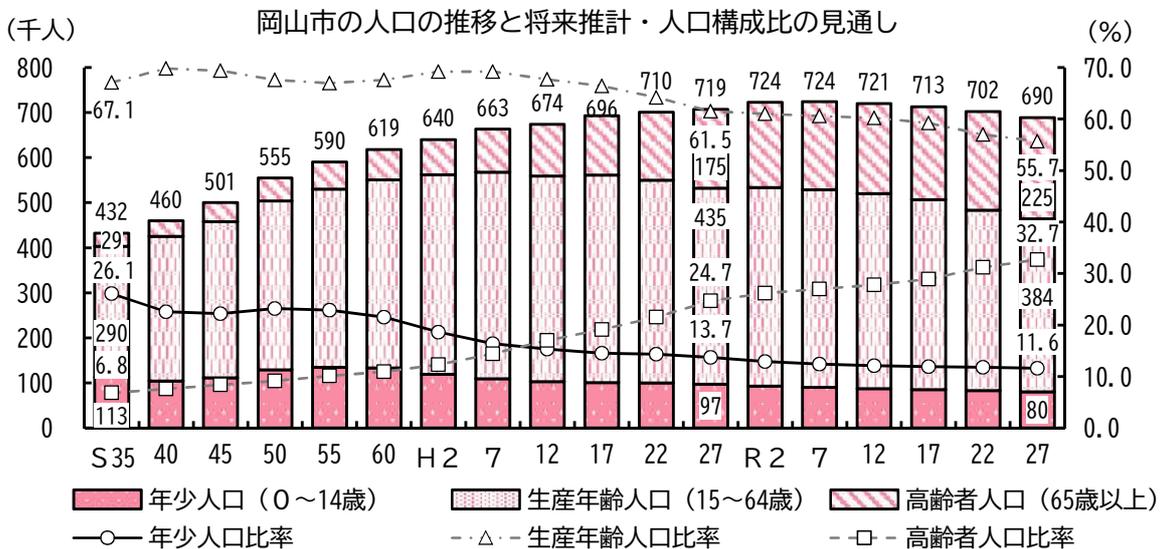
第2章

岡山市のこどもと子育て家庭を取り巻く状況

1 人口・世帯の状況

(1) 人口の推移と将来推計

岡山市の人口は緩やかな増加が続いてきましたが、今後は減少傾向に転じると予測されています。



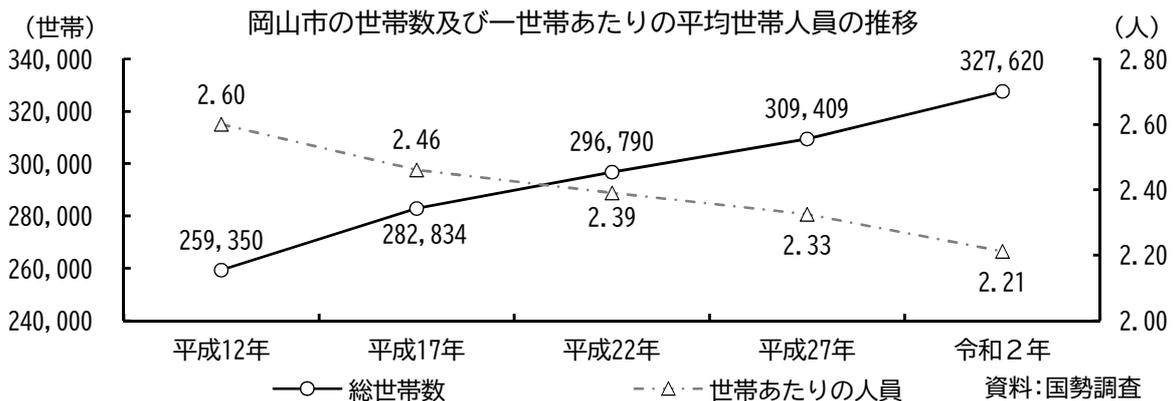
※ 平成27年までは実績値、令和2年以降は推計値

※ 総数は「不詳」を含む、年齢別は「不詳」を除いて算出

資料：岡山市第六次総合計画後期中期計画

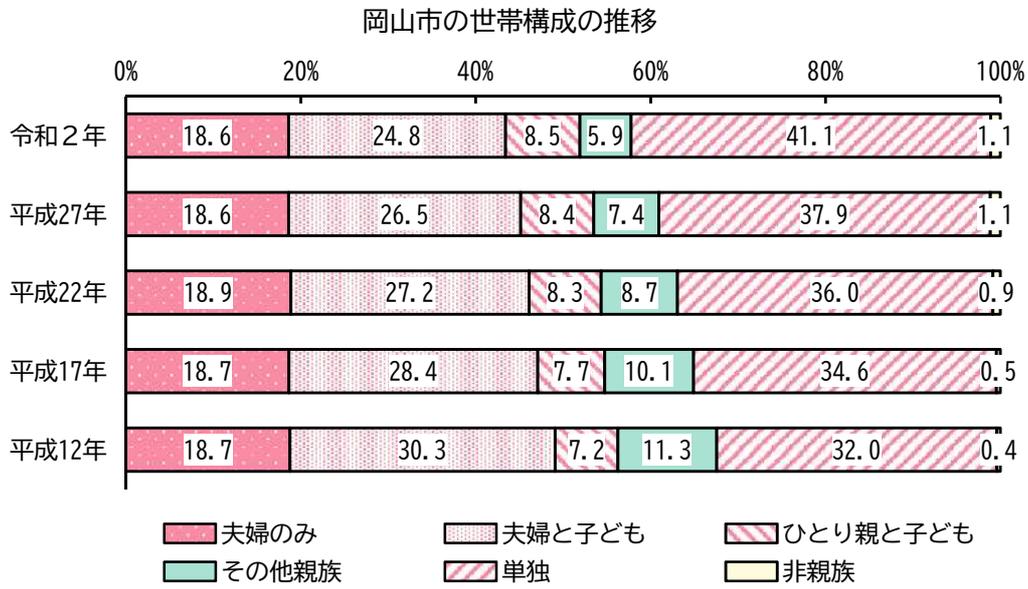
(2) 世帯数及び一世帯あたりの人員

岡山市の世帯数は増加傾向にあります。一世帯あたりの平均世帯人員は減少傾向となっており、世帯規模の縮小が進んでいます。



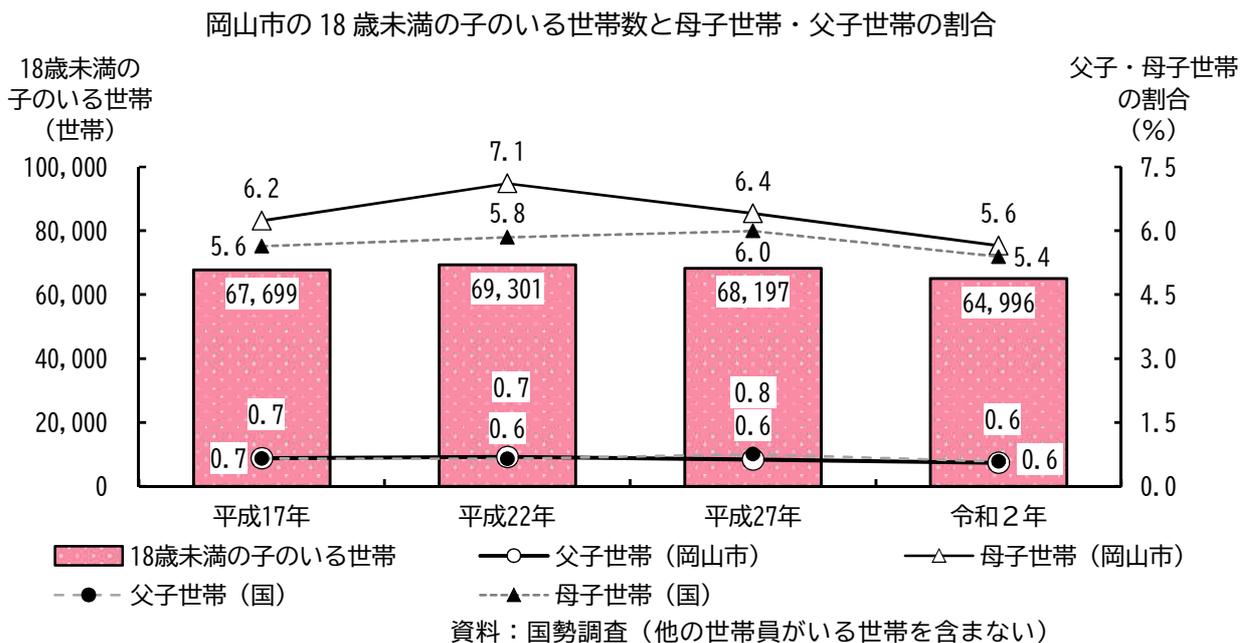
(3) 世帯構成の推移

世帯構成は、「夫婦と子ども」から成る世帯が、平成12年の30.3%から令和2年の24.8%へ5.5ポイント減少し、「単独」世帯の割合が9.1ポイント増加しています。



(4) ひとり親世帯の推移

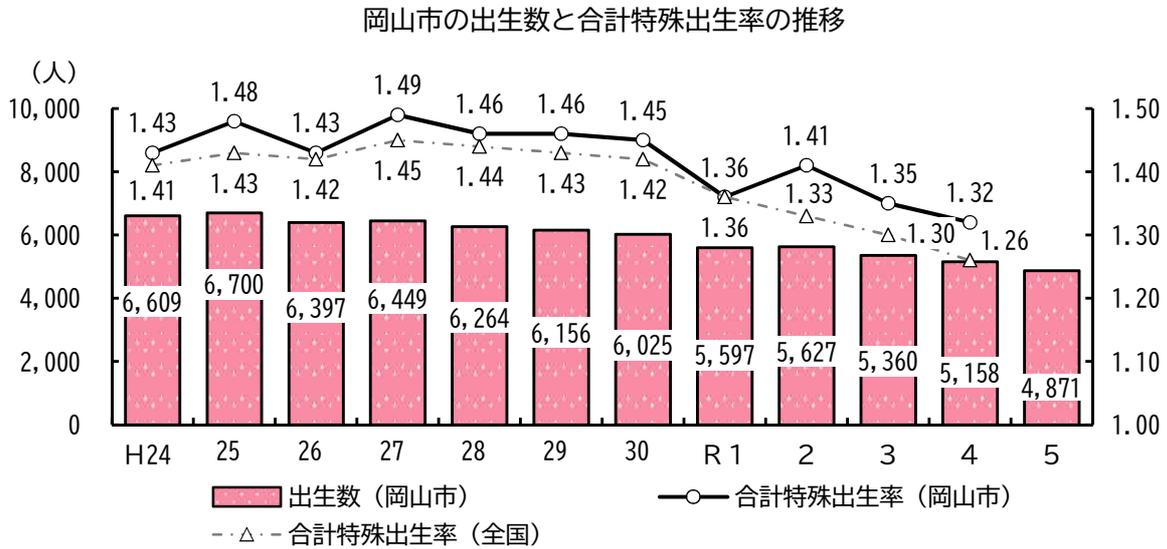
18歳未満の子のいる世帯に対するひとり親世帯の割合をみると、父子世帯は横ばいで推移しているなか、母子世帯は平成22年までは増加していましたが、それ以降は減少しています。令和2年の割合は、父子世帯が0.6%、母子世帯が5.6%となっています。



2 少子化の動向

(1) 合計特殊出生率及び出生数の推移

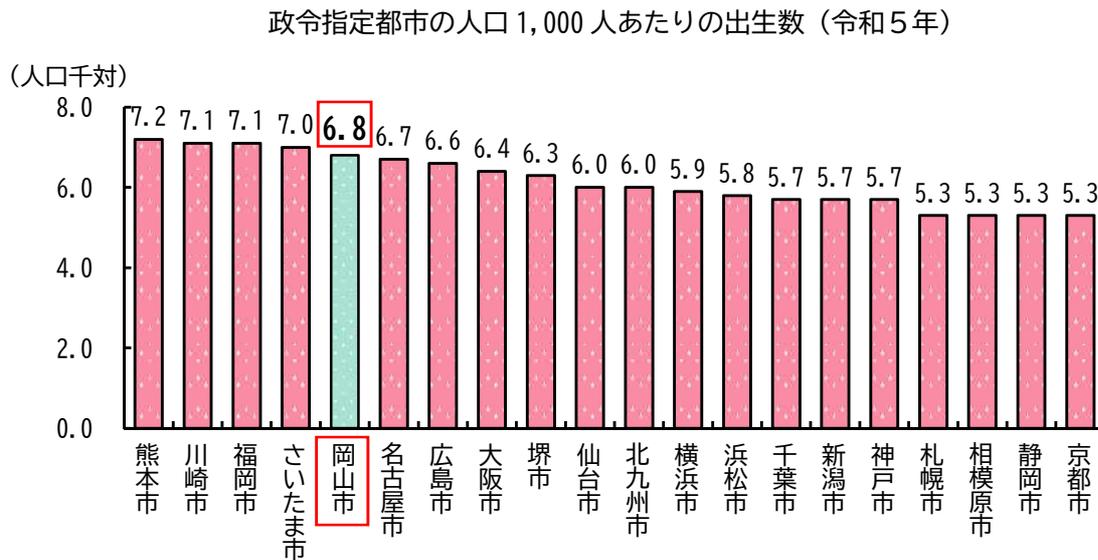
出生数は、近年特に減少傾向にあります。合計特殊出生率は、全国より概ね高い水準で推移しており、令和4年は1.32となっています。



資料：平成 24～令和 4 年 岡山県衛生年報
令和 5 年 人口動態統計

(2) 政令指定都市の出生数

岡山市の人口1,000人あたりの出生数は6.8となっており、政令指定都市の中では高い値となっています。

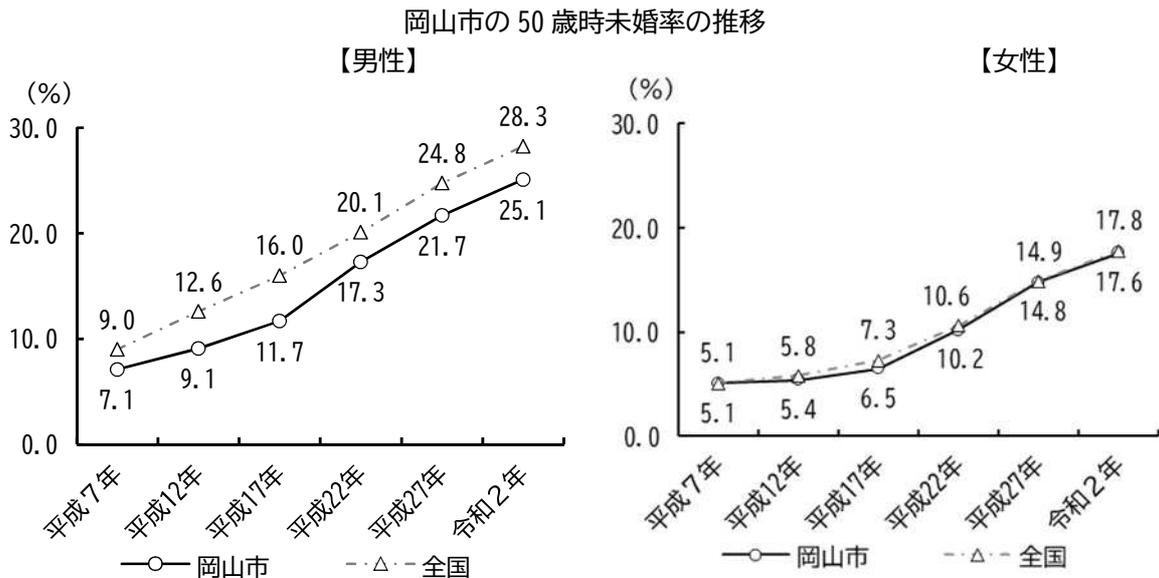


資料：人口動態統計

(3) 50歳時の未婚率の推移

男性の50歳時未婚率は全国より下回って推移していますが、平成7年の7.1%から令和2年の25.1%へ大きく上昇しています。

女性の50歳時未婚率は、特に平成17年以降大きく上昇し、令和2年は17.6%となっており、全国と同じ水準となっています。また、女性に比べて、男性の未婚率が高くなっています。



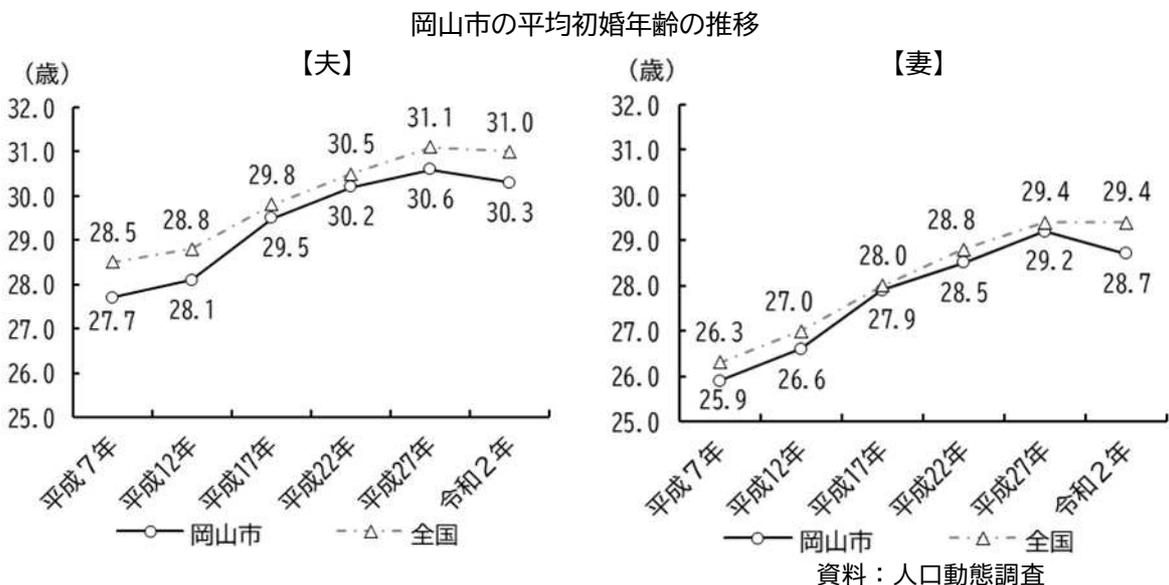
※ 45～49歳と50～54歳における割合の平均値

※ 全国 平成27年・令和2年配偶関係不詳補完結果に基づく

資料：国勢調査

(4) 平均初婚年齢の推移

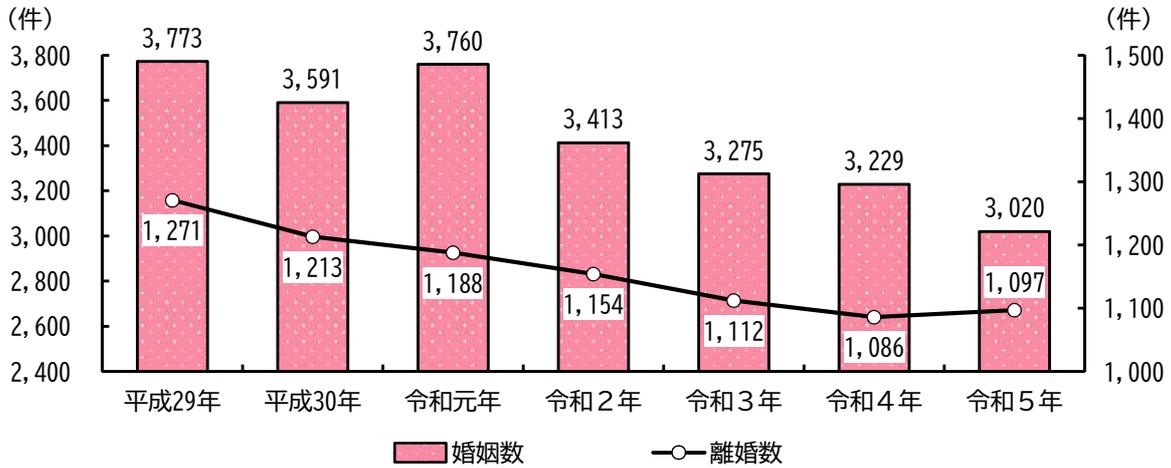
平均初婚年齢は、夫、妻ともに全国よりも若い年齢で推移していますが、平成7年に比べ令和2年では平均初婚年齢が上がっており、晩婚化が進んでいます。



(5) 婚姻数・離婚数の推移

年間の離婚数は減少傾向にあり、婚姻数は令和元年に増加したもののそれ以降は減少しています。令和5年は、婚姻数3,020件、離婚数1,097件となっています。

岡山市の婚姻数・離婚数の推移



資料：岡山県衛生統計年報 人口動態統計

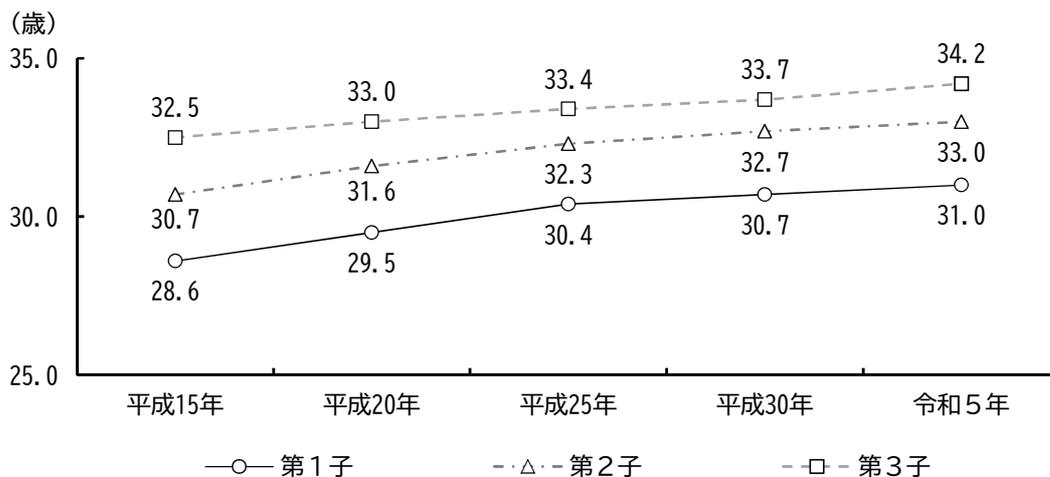
第1部

第2章

(6) 母親の平均出生時年齢の推移

全国の母親の平均出生時年齢は上昇傾向にあり、令和5年で第1子が31.0歳、第2子が33.0歳、第3子が34.2歳となっています。

母親の平均出生時年齢の年次推移（全国）

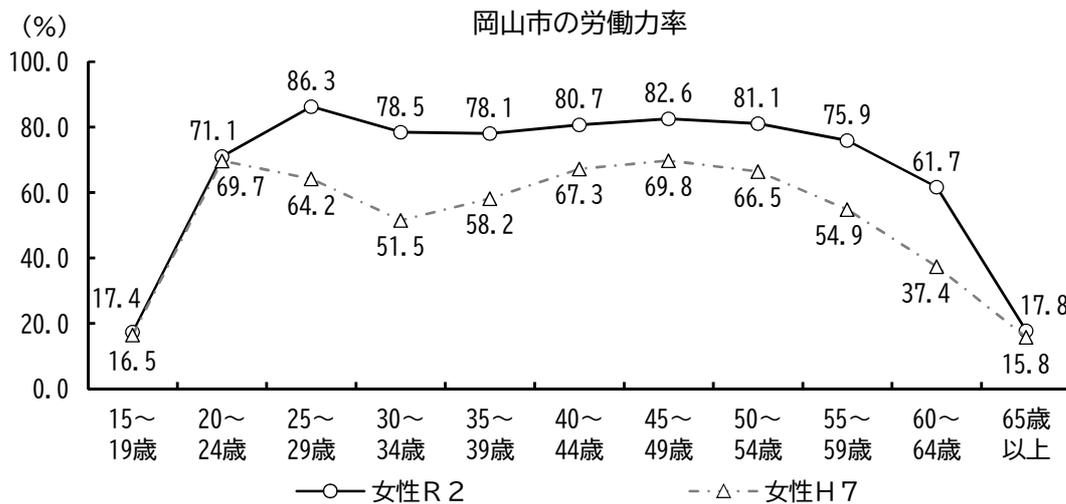


資料：人口動態統計

3 就労や家庭の状況

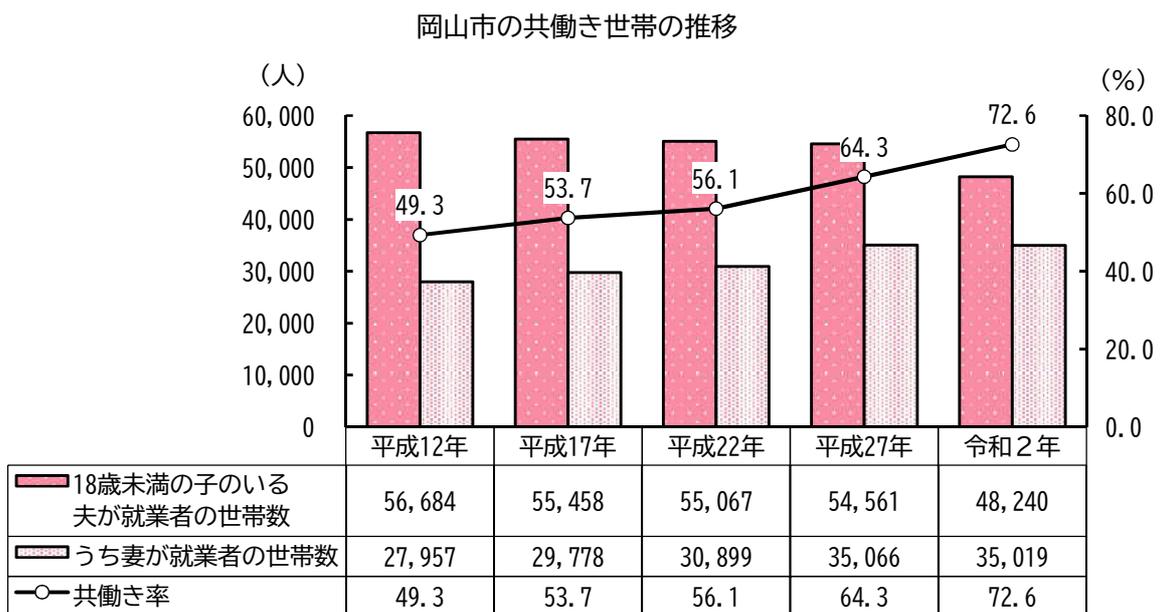
(1) 労働力率

女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）について、25～59歳の女性の労働力率では、平成7年で約5～7割、令和2年で7割半ば～8割半ばとなっており、女性の就労が進んでいることがわかります。



(2) 共働きの状況（18歳未満の子のいる世帯）

18歳未満の子のいる世帯のうち夫婦共働き世帯の割合は年々上昇し、令和2年には72.6%となっています。

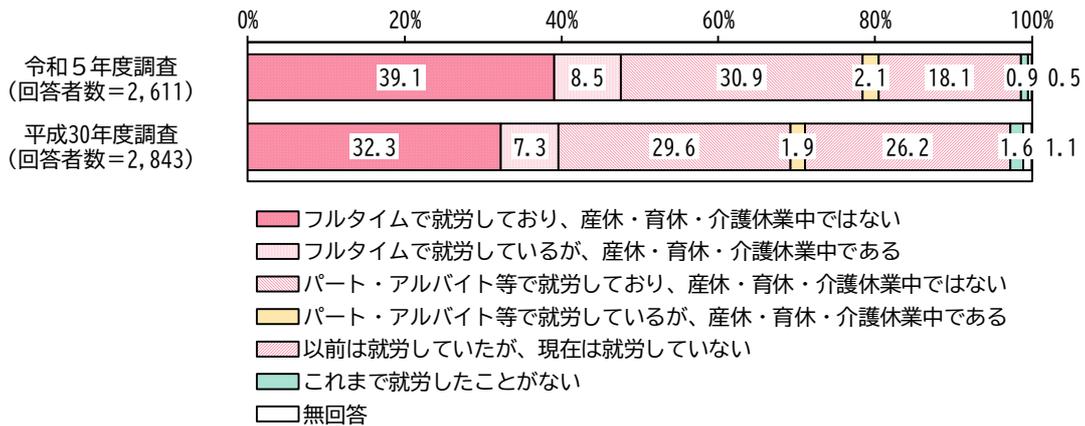


(3) 母親の現在の就労状況

母親の就労状況について、『フルタイムで就労している』と回答した割合が47.6%となっています。また、『パート・アルバイト等で就労している』の割合が33.0%となっています。

平成30年度調査と比較すると、『フルタイムで就労している』の割合が増加しています。

岡山市の母親の就労状況



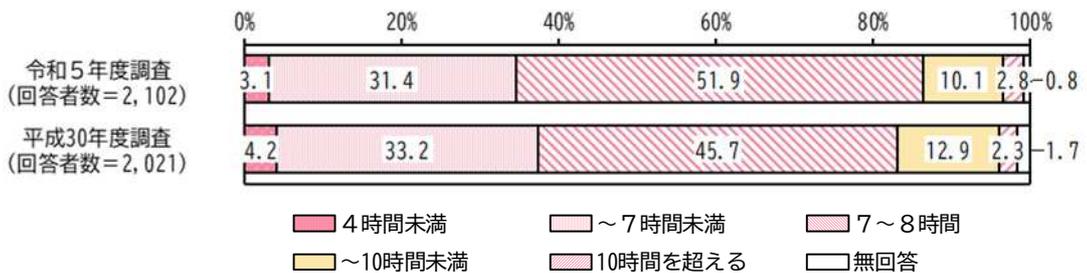
資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

(4) 母親の就労時間の推移

母親の1日あたりの就労時間について、「7～8時間」と回答した割合が51.9%となっています。また、『8時間を超える』割合が12.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「7～8時間」の割合が増加しています。

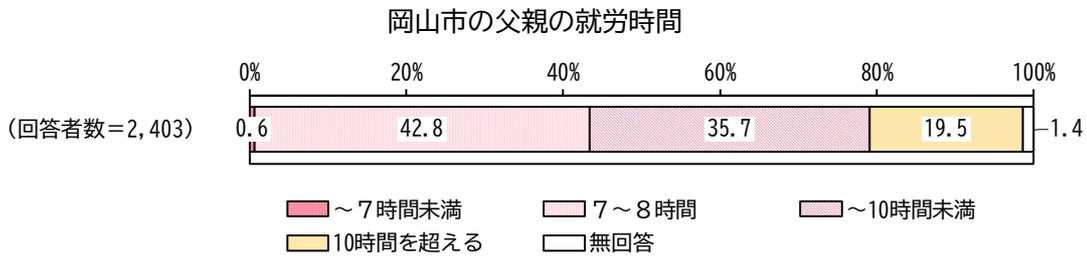
岡山市の母親の就労時間の推移



資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

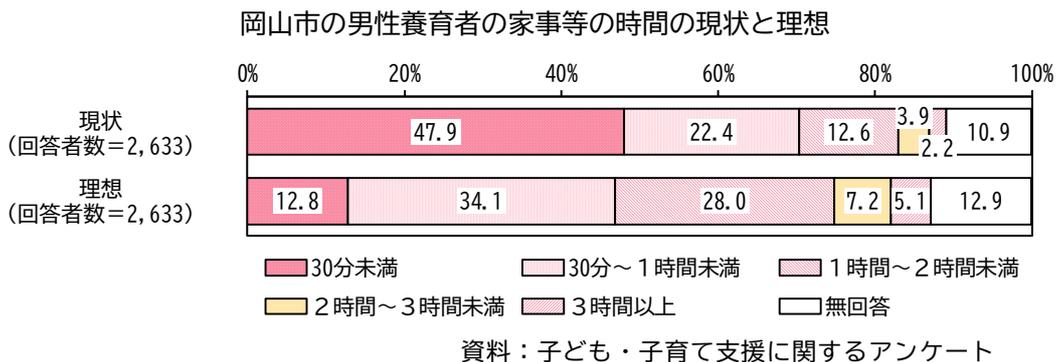
(5) 父親の就労時間

父親の1日あたりの就労時間について、「7～8時間」と回答した割合が42.8%となっています。また、「10時間を超える」割合が19.5%となっています。

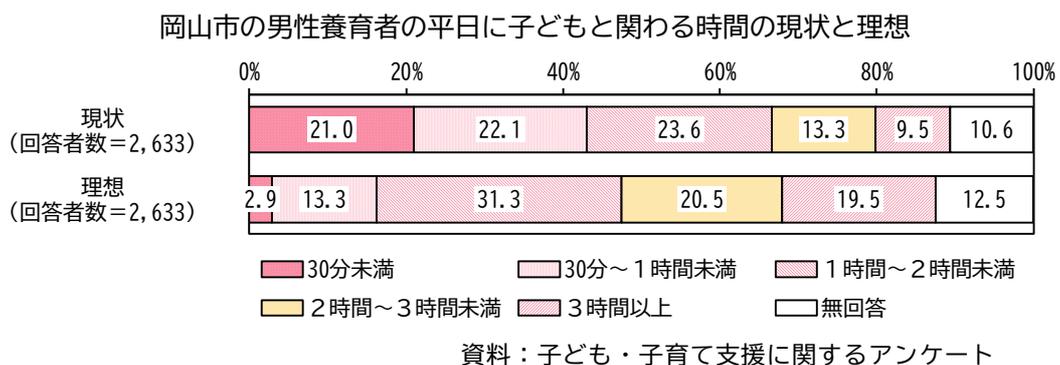


(6) 父親の家事や子どもと関わる時間

男性養育者の平日の家事等の時間の現状と理想について、理想では『1時間以上』と回答した割合が40.3%に対して、現状では「30分未満」と回答した割合が47.9%となっています。



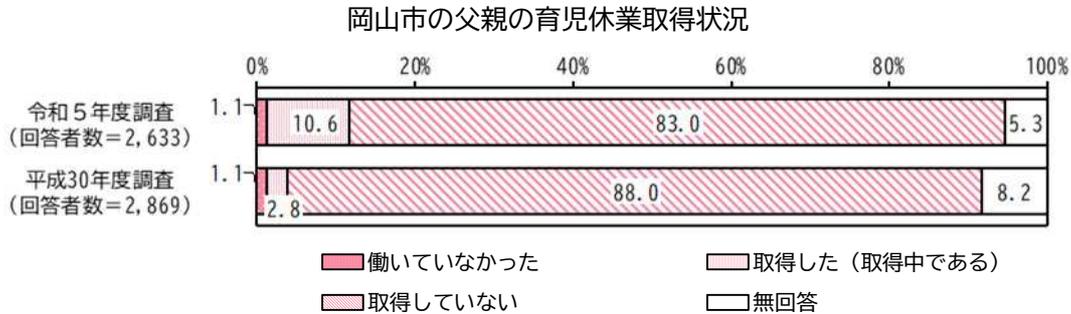
男性養育者の平日に子どもと関わる時間の現状と理想について、理想では『2時間以上』と回答した割合が40.0%に対して、現状では『1時間未満』と回答した割合が43.1%となっています。



(7) 父親の育児休業取得状況

父親の育児休業取得状況について、「取得した（取得中である）」と回答した割合が10.6%となっています。

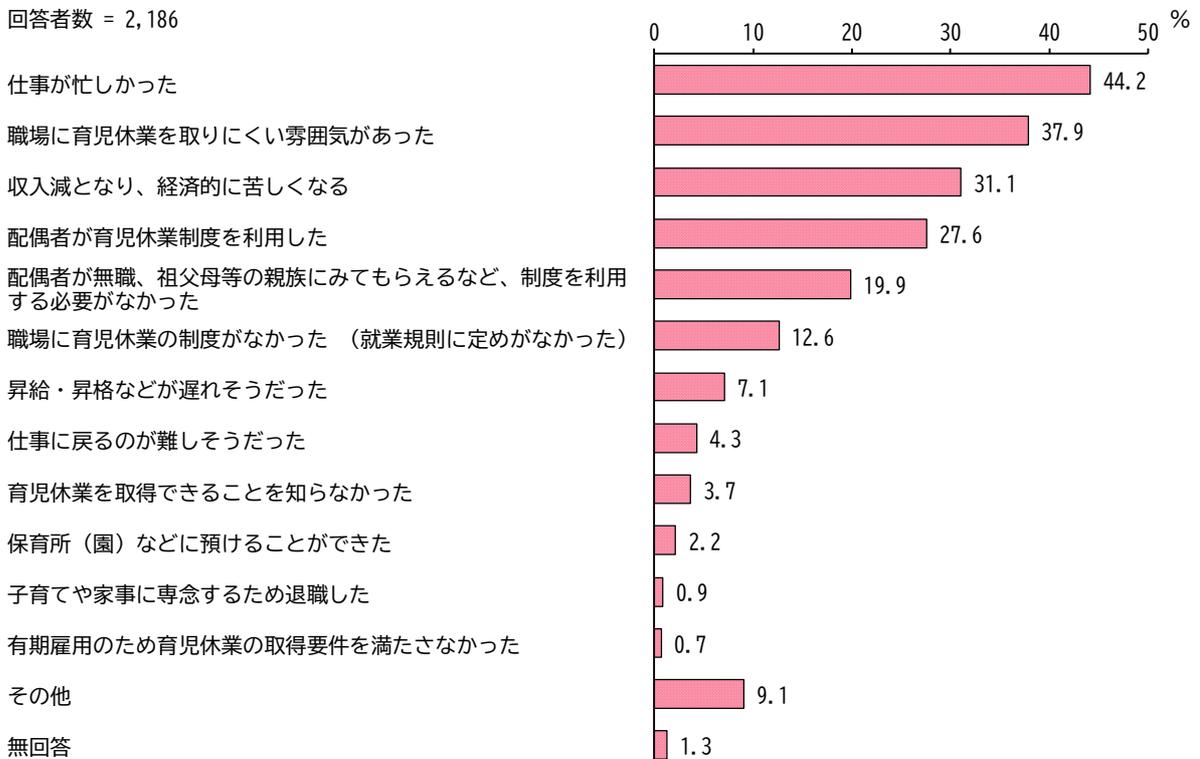
平成30年度調査と比較すると、「取得した（取得中である）」の割合が増加しています。



資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

父親が育児休業を取得していない理由について、「仕事が忙しかった」と回答した割合が44.2%と最も高く、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が37.9%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が31.1%となっています。

岡山市の父親の育児休業を取得していない理由



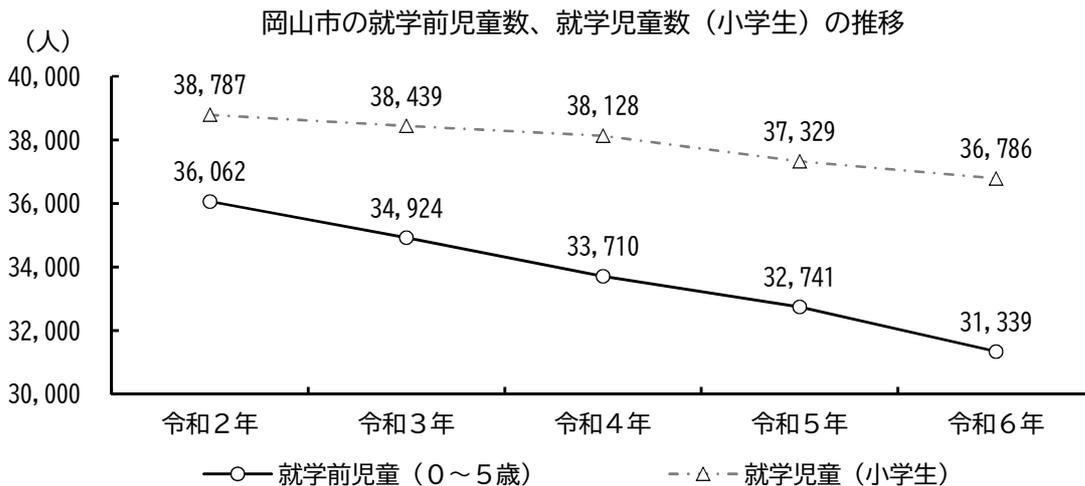
資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

4 こども・若者の状況

(1) こどもの意識や状況

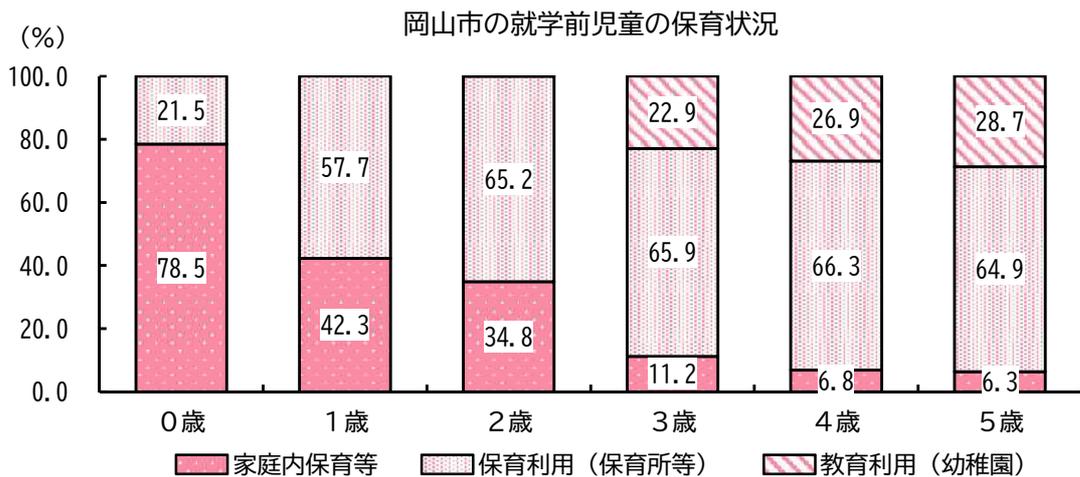
① 就学前児童数、就学児童数（小学生）の推移

就学児童数（小学生）は緩やかな減少が続いていますが、就学前児童数は大きく減少しています。令和6年は、就学前児童31,339人、就学児童36,786人となっています。



② 就学前児童の保育状況

就学前児童は、0歳時では約8割が家庭などで過ごし、4～5歳児の9割以上が教育・保育施設を利用しています。



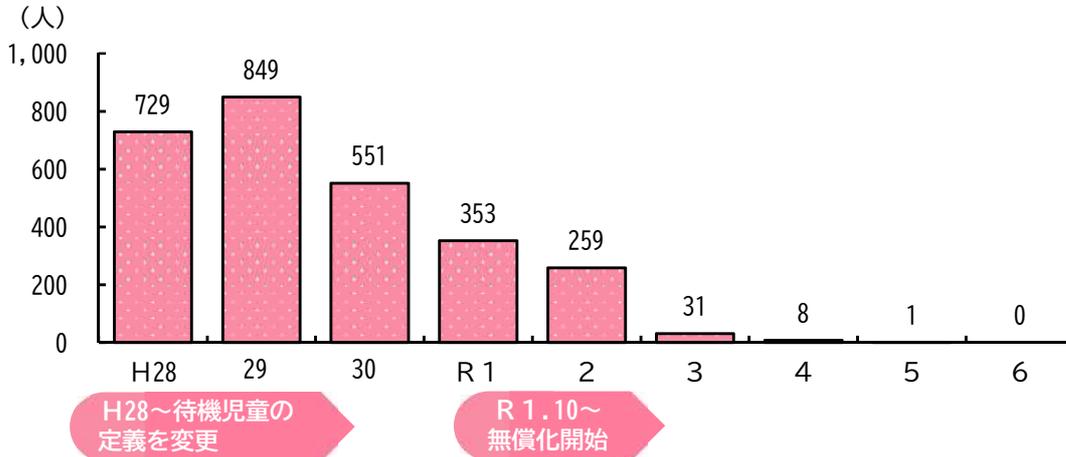
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
教育利用（幼稚園）	0	0	1	1,195	1,459	1,621
保育利用（保育所等）	1,009	2,962	3,414	3,437	3,593	3,664
家庭内保育等	3,680	2,169	1,825	584	368	358
就学前児童数計	4,689	5,131	5,240	5,216	5,420	5,643

※ 保育所等には、企業主導型、特認登録、認可外保育を含む。
資料：岡山市（令和6年4月1日時点）

③ 保育の待機児童数推移

最も多い時には800人以上いた待機児童は令和6年には0人となり、待機児童は解消されました。

岡山市の保育の待機児童数推移（平成28年度以降）

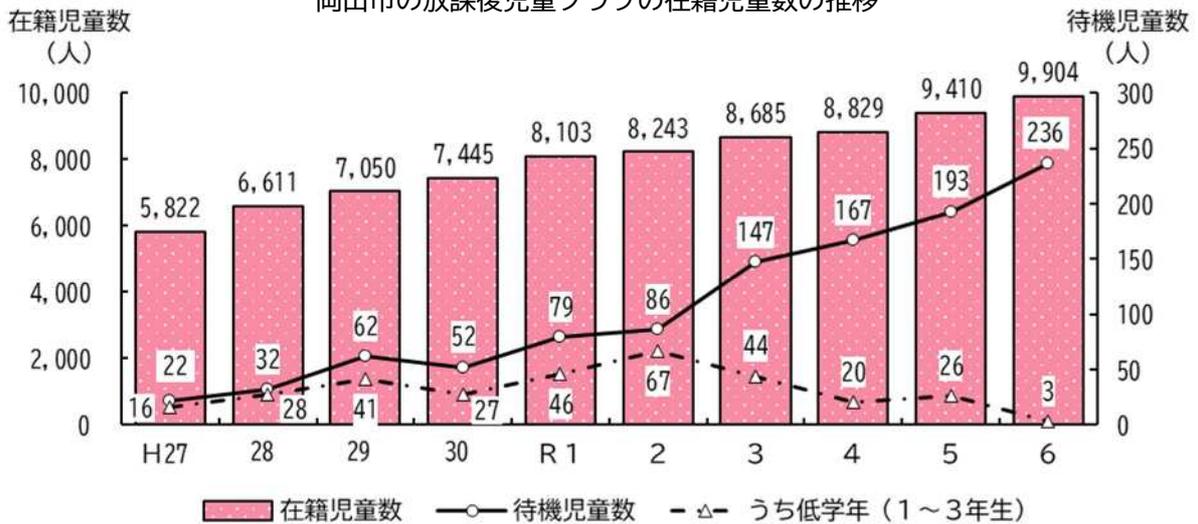


資料：岡山市（各年4月1日時点）

④ 放課後児童クラブの在籍児童数の推移

在籍児童数は年々増加しており、令和6年は9,904人となっています。また、待機児童数は増加傾向にあります。

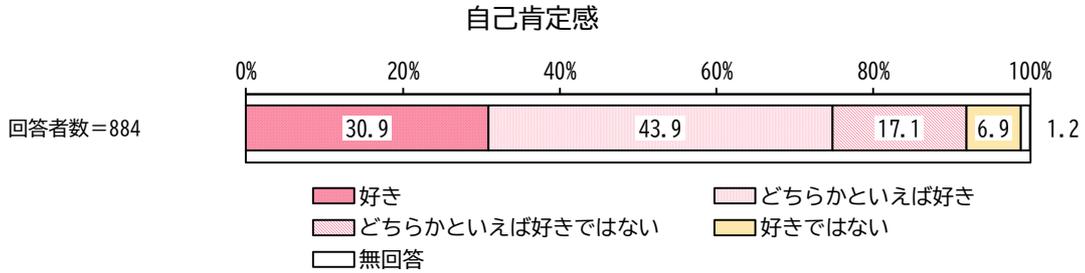
岡山市の放課後児童クラブの在籍児童数の推移



資料：岡山市（各年5月1日時点、令和2年は7月1日時点）

⑤ 中高生世代の自己肯定感

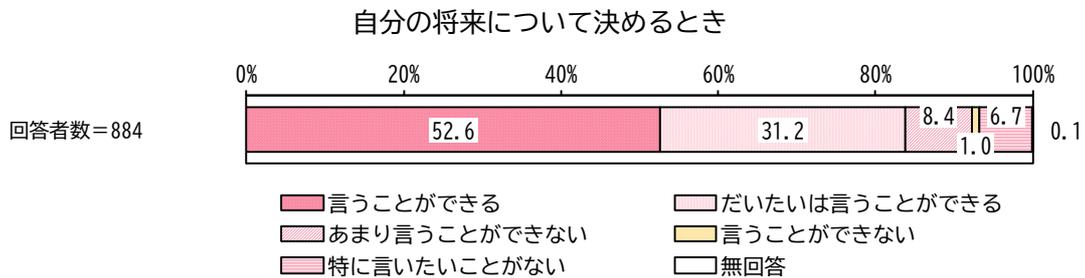
自己肯定感について、自分のことが『好き』（「好き」＋「どちらかといえば好き」）と回答した割合が74.8%、『好きではない』（「好きではない」＋「どちらかといえば好きではない」）と回答した割合が24.0%となっています。



資料：中高生世代の意識に関するアンケート

⑥ 中高生世代が自分の将来について決めるとき

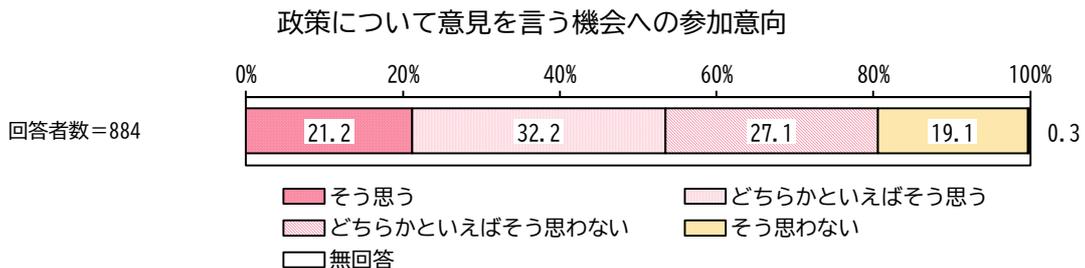
自分の将来について決めるとき、自分の考えや思いを『言うことができる』（「言うことができる」＋「だいたいと言うことができる」）と回答した割合が83.8%、『言うことができない』（「言うことができない」＋「あまり言うことができない」）と回答した割合が9.4%となっています。



資料：中高生世代の意識に関するアンケート

⑦ 中高生世代の政策について意見を言う機会への参加意向

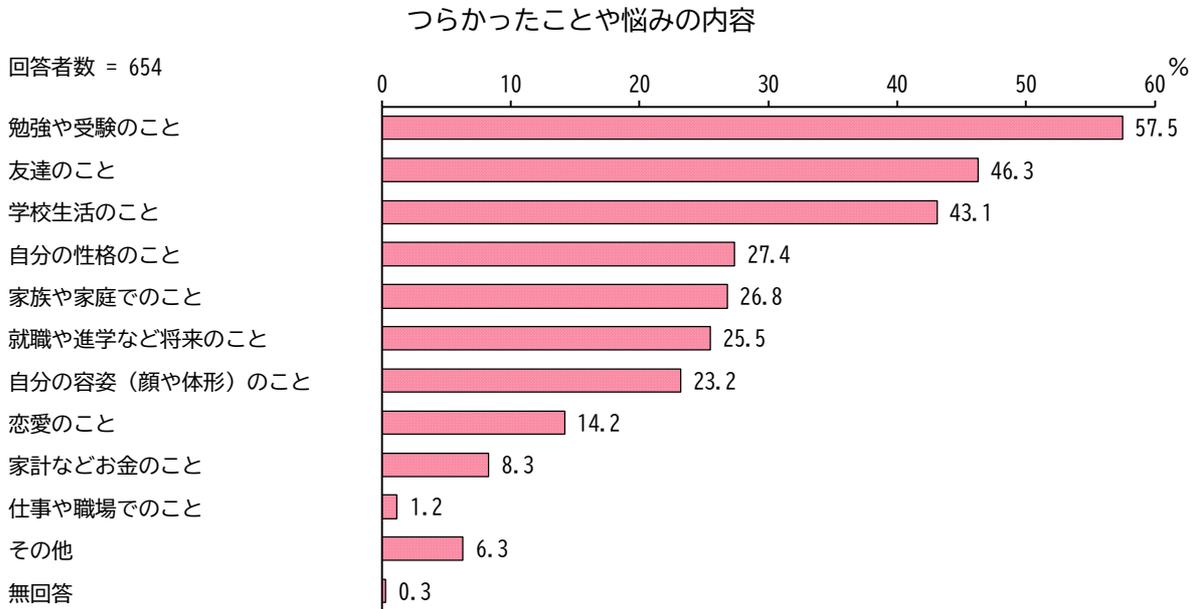
政策について意見を言う機会への参加意向について、参加したいと『思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した割合が53.4%、『思わない』（「思わない」＋「どちらかといえば思わない」）と回答した割合が46.2%となっています。



資料：中高生世代の意識に関するアンケート

⑧ 中高生世代のつらかったことや悩みの内容

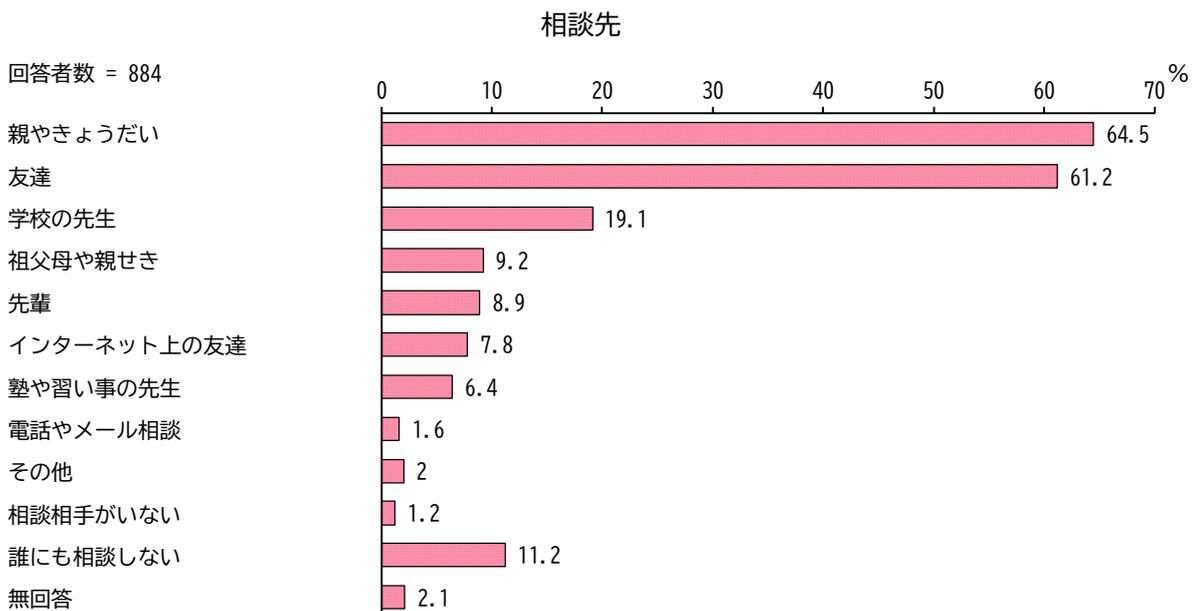
悩みの内容について、「勉強や受験のこと」と回答した割合が57.5%と最も高く、「友達のこと」（46.3%）、「学校生活のこと」（43.1%）が続いています。



資料：中高生世代の意識に関するアンケート

⑨ 中高生世代の相談先

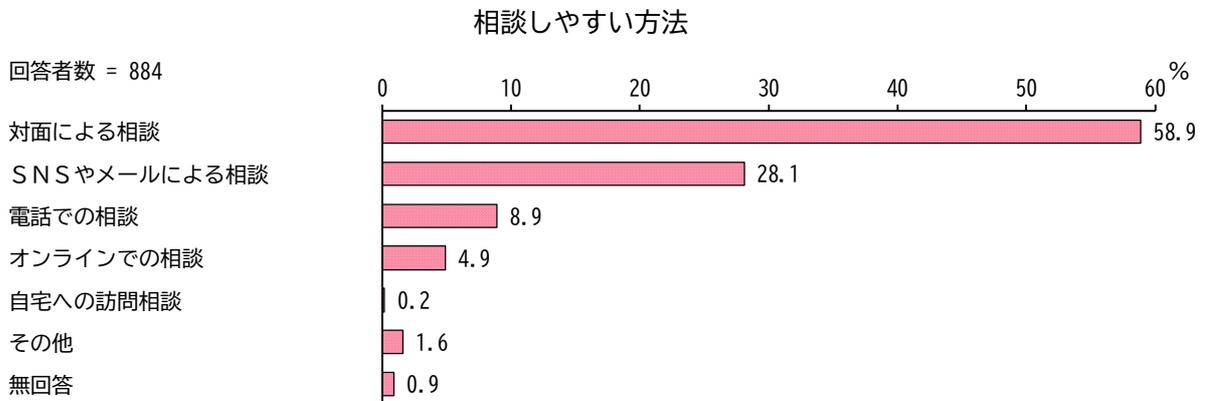
相談先について、「親やきょうだい」と回答した割合が64.5%と最も高く、次いで「友達」（61.2%）となっています。



資料：中高生世代の意識に関するアンケート

⑩ 中高生世代の相談しやすい方法

相談しやすい方法について、「対面による相談」と回答した割合が58.9%と最も高く、次いで「SNSやメールによる相談」（28.1%）となっています。



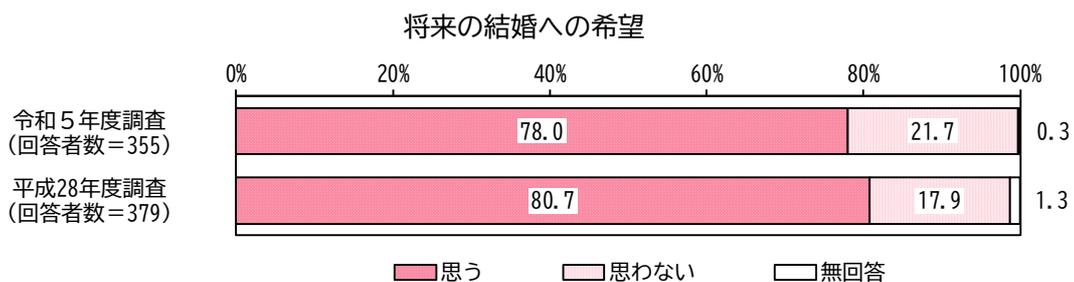
資料：中高生世代の意識に関するアンケート

(2) 若者※の意識や状況 (※対象は18歳から39歳まで)

① 若者の将来の結婚への希望

将来の結婚への希望について、結婚したいと「思う」と回答した割合が78.0%となっています。

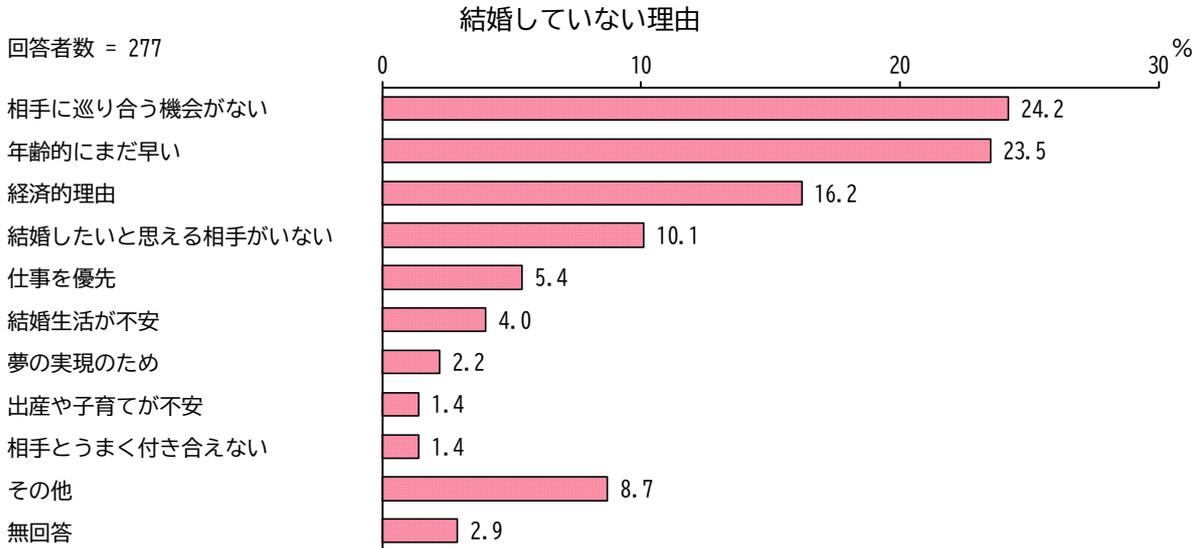
前回調査結果と比較すると、大きな差はみられません。



資料：若者の意識に関するアンケート

② 若者の結婚していない理由

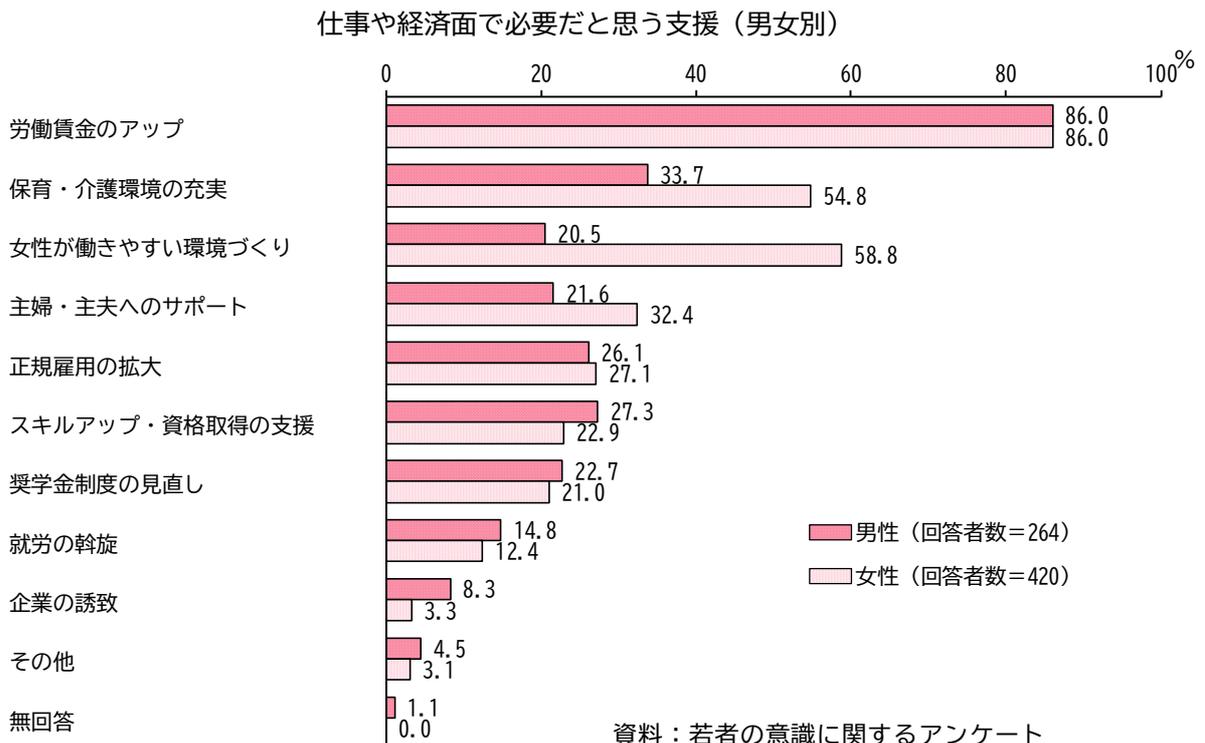
結婚していない理由について、「相手に巡り合う機会がない」と回答した割合が24.2%、「年齢的にまだ早い※」が23.5%、「経済的理由」が16.2%となっています。



資料：若者の意識に関するアンケート
 ※「年齢的にまだ早い」と回答した人の約7割は20歳未満でした。

③ 若者が仕事や経済面で必要だと思う支援（男女別）

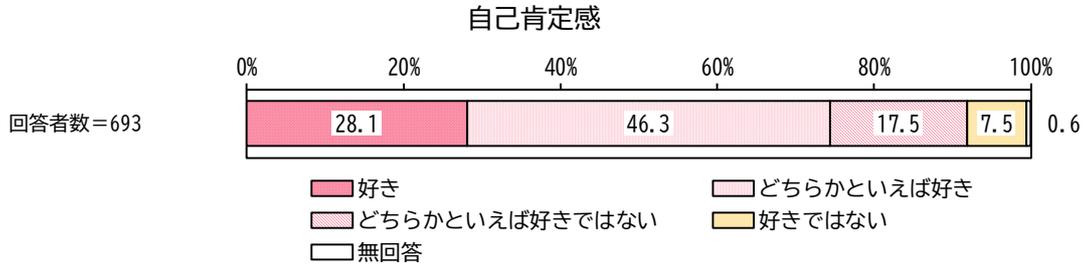
仕事や経済面で必要だと思う支援について男女別にみると、男女ともに「労働賃金のアップ」と回答した割合が86.0%と最も多くなっています。「保育・介護環境の充実」が女性で54.8%、「女性が働きやすい環境づくり」が女性58.8%と男女差が特に大きくなっています。



資料：若者の意識に関するアンケート

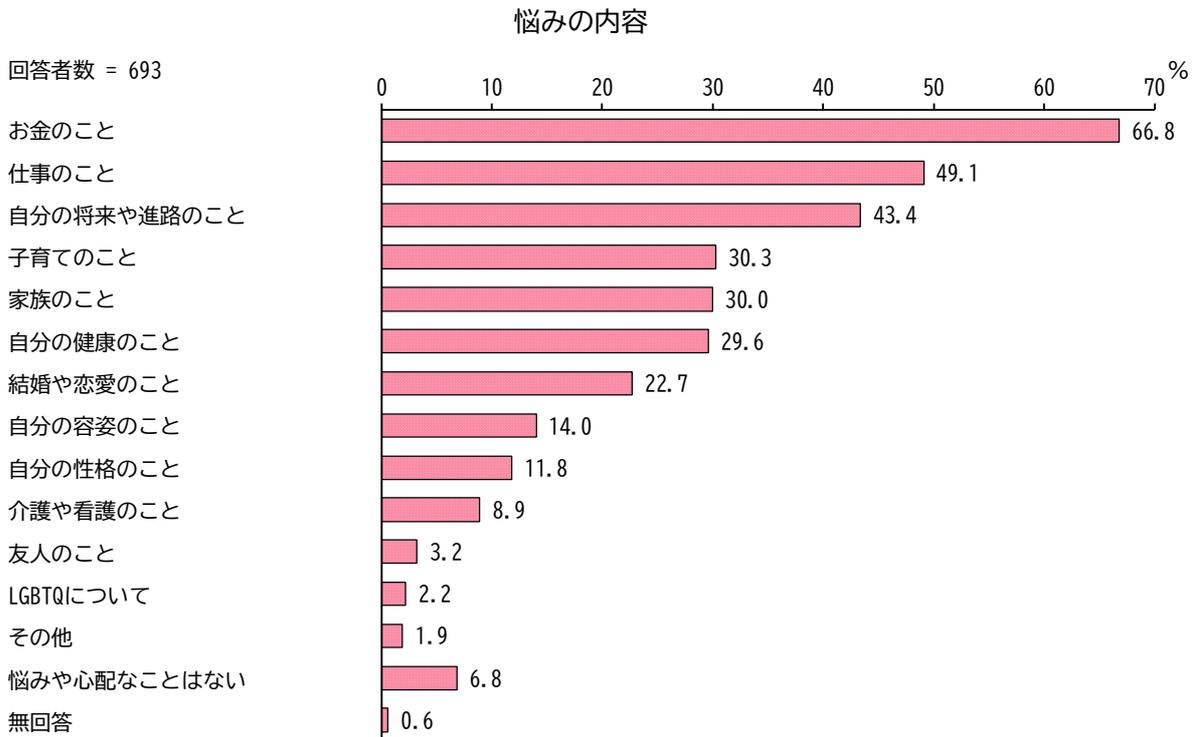
④ 若者の自己肯定感

自分のことが好きかどうかについて、自分のことが『好き』（「好き」+「どちらかといえば好き」）と回答した割合が74.4%、『好きではない』（「好きではない」+「どちらかといえば好きではない」）と回答した割合が25.0%となっています。



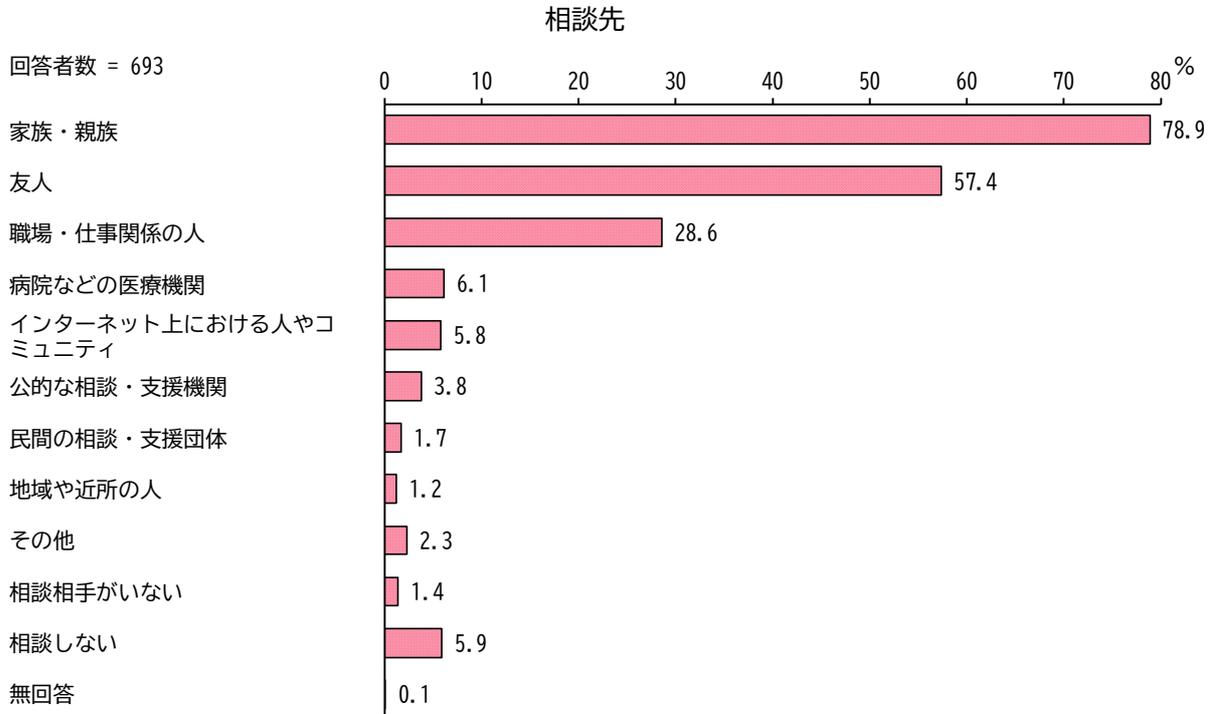
⑤ 若者の悩みの内容

悩みの内容について、「お金のこと」と回答した割合が66.8%と最も高く、「仕事のこと」（49.1%）、「自分の将来や進路のこと」（43.4%）が続いています。



⑥ 若者の相談先

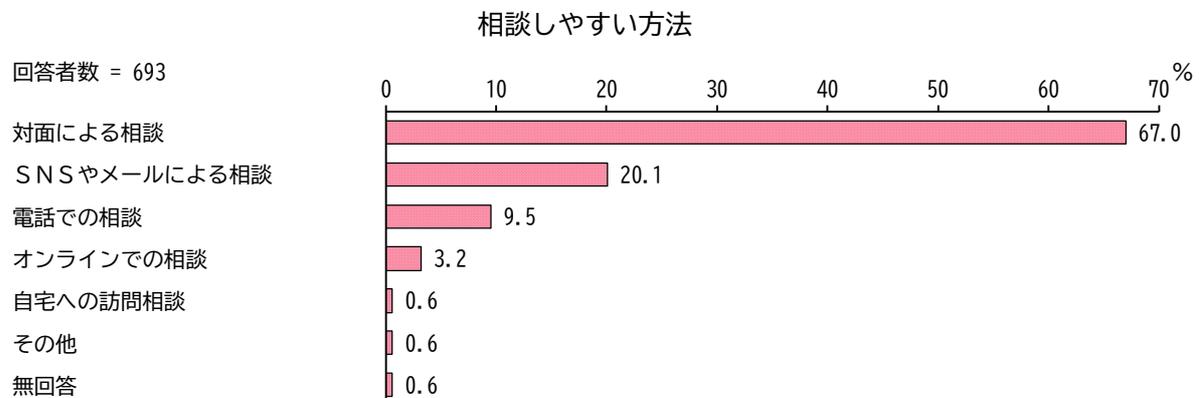
相談先について、「家族・親族」と回答した割合が78.9%と最も高く、「友人」(57.4%)、「職場・仕事関係の人」(28.6%)が続いています。



資料：若者の意識に関するアンケート

⑦ 若者の相談しやすい方法

相談しやすい方法について、「対面による相談」と回答した割合が67.0%と最も高く、「SNSやメールによる相談」(20.1%)、「電話での相談」(9.5%)が続いています。

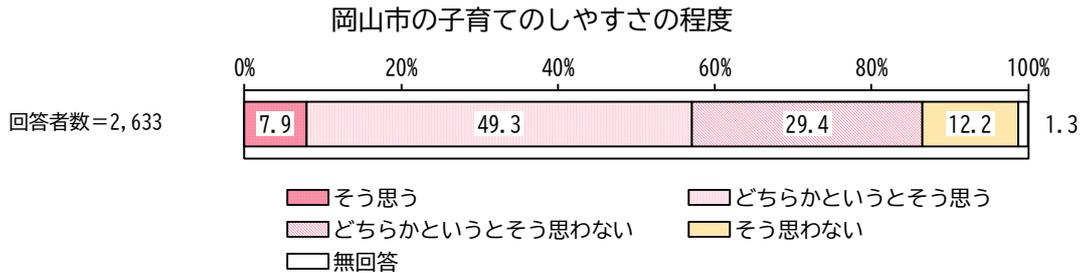


資料：若者の意識に関するアンケート

5 子育て世代の状況

(1) 子育てのしやすさの程度

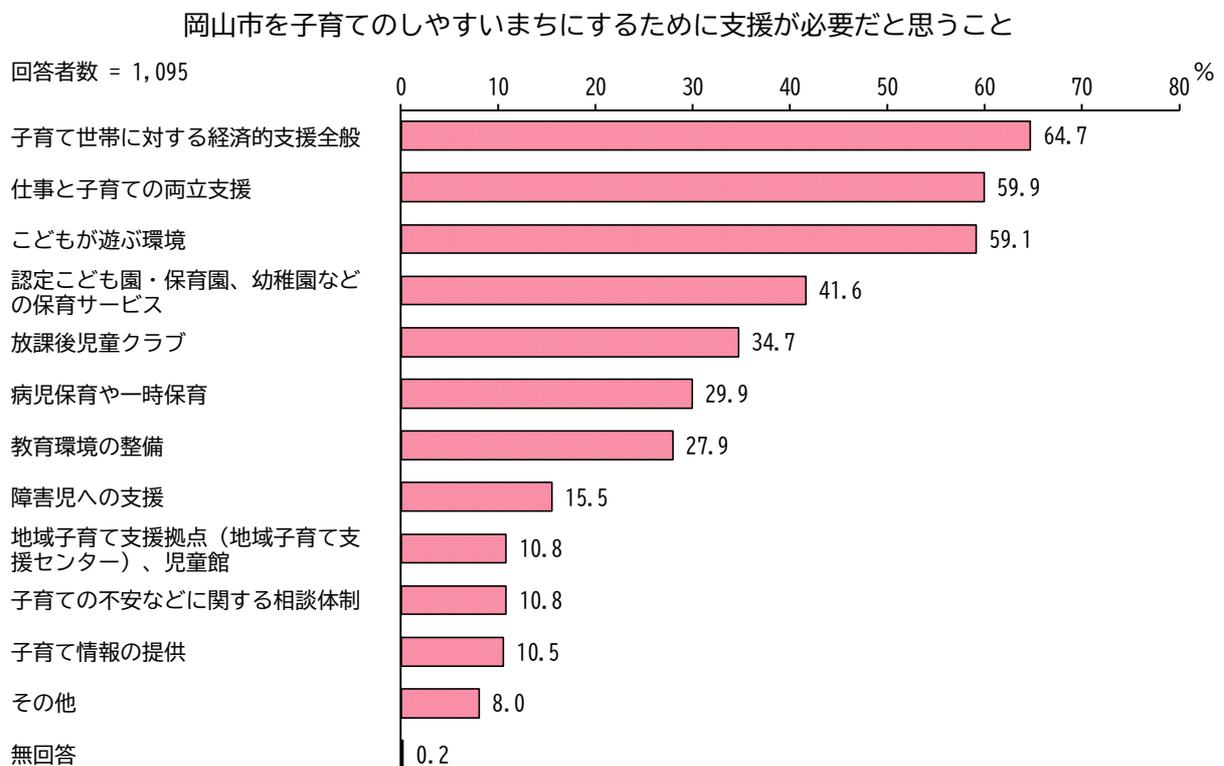
岡山市の子育てのしやすさの程度について、『子育てしやすいと思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した割合は57.2%、『子育てしやすいと思わない』（「そう思わない」＋「どちらかというと思わない」）と回答した割合は、41.6%となっています。



資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

(2) 子育てのしやすいまちにするために支援が必要だと思うこと

子育てしやすいまちにするために支援が必要だと思うことについて、「子育て世帯に対する経済的支援全般」と回答した割合が64.7%、「仕事と子育ての両立支援」と回答した割合が59.9%、「こどもが遊ぶ環境」と回答した割合が59.1%となっています。



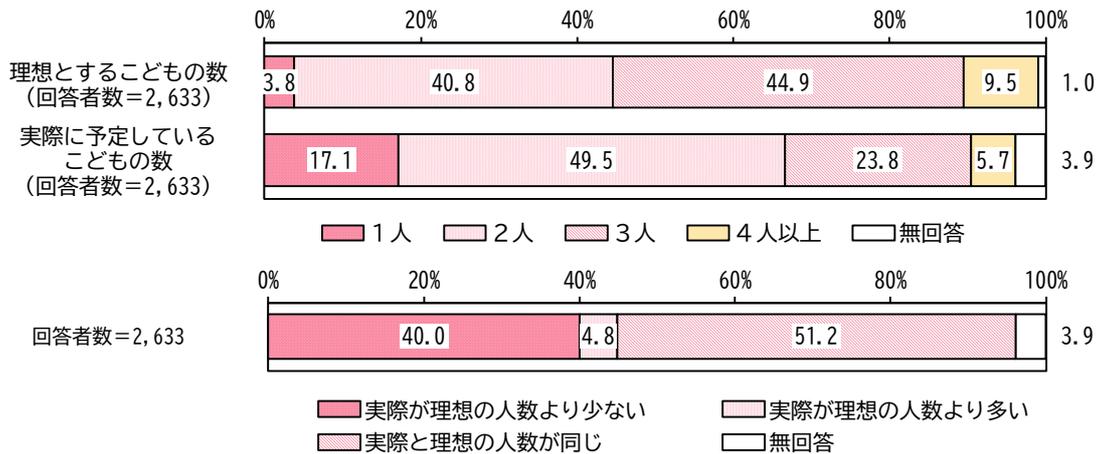
資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

(3) 子育て世代の子どもをもつことの理想と現実・その理由

理想のこどもの数と実際に予定しているこどもの数をみると、理想のこどもの数では「3人」と回答した割合が4割半ばに達していますが、実際に予定しているこどもの数では2割台となっています。

また、実際に予定しているこどもの数が理想のこどもの数より少ない割合は40.0%となっています。

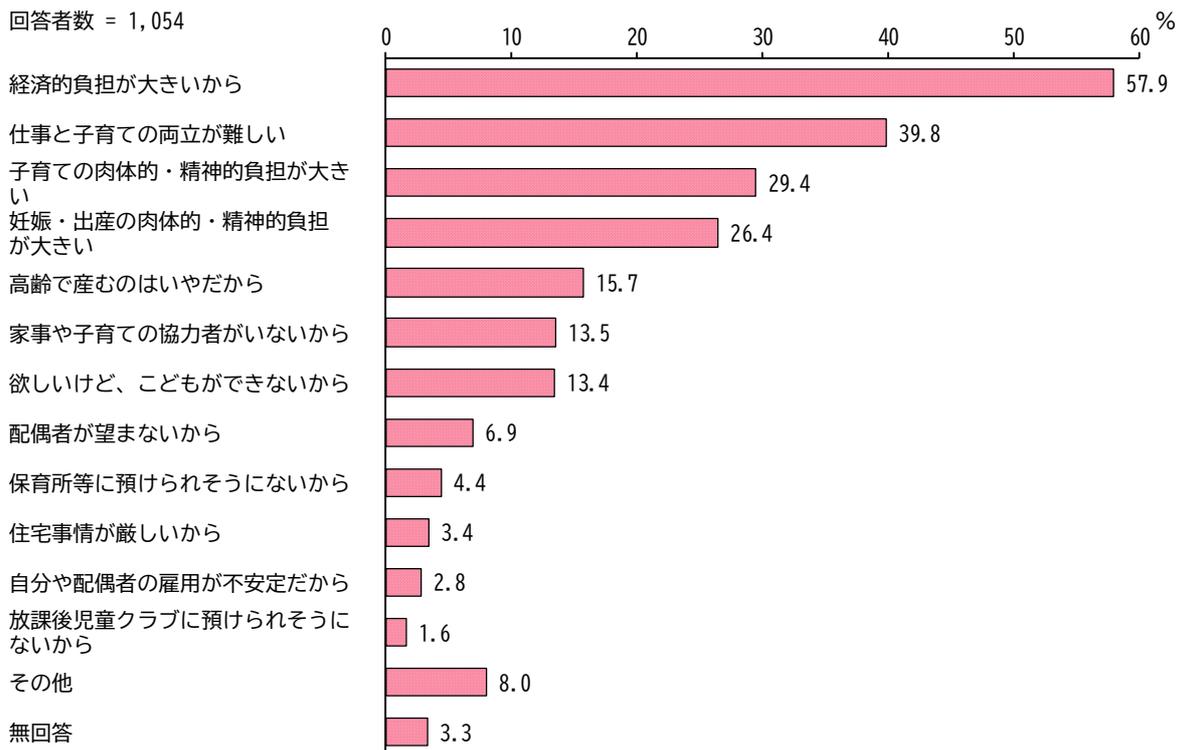
岡山市子育て世代の子どもをもつことの理想と現実



資料：子ども・子育て支援に関するアンケート

実際に予定しているこどもの数が少ない理由について、「経済的負担が大きいから」と回答した割合が57.9%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しい」が39.8%となっています。

実際に予定しているこどもの数が少ない理由



資料：子ども・子育て支援に関するアンケート